

まずは、主任教諭選考からチャレンジしてみよう！

主任教諭選考

【選考状況】

【主任教諭】校務分掌などにおける
学校運営上の重要な役割

⇒合格後は、主幹教諭を補佐し、
職務を遂行するとともに、担当
する校務分掌の職務について、
同僚や若手教員への助言・支援
ができる主任教諭に任用



4級職選考

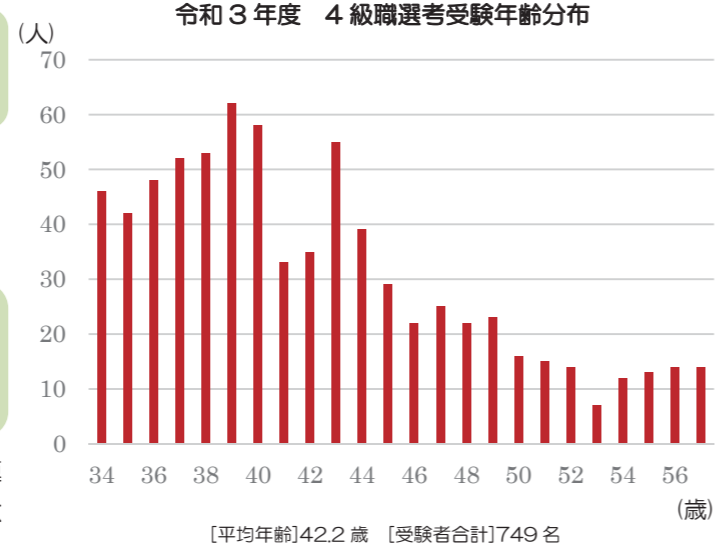
【選考状況】

【主幹教諭】学校運営組織における
中心的な役割

⇒合格後は、学校経営方針の推進、人材
育成、分掌間の調整、教諭等を指導・
監督する主幹教諭に任用

【指導教諭】学習指導のスペシャリスト
として教員の授業力向上に
寄与する重要な役割

⇒合格後は、高い専門性と優れた指導
力を身に付け、都公立学校教員全体
の授業力向上を図る指導教諭に任用



※以上の他に、昇任選考には「教育管理職選考（C選考）」があります。

C選考合格後は、原則として、翌年度から「現場経験の豊富なベテラン教員から選抜された
即戦力管理職」として副校長に任用されます。

御質問などがある場合は、各学校の管理職にお問い合わせください。

なお、このリーフレットは
こちらからも御覧いただけます。



発行元：東京都教育庁人事部職員課
東京都教育委員会印刷物登録令和4年度第1号



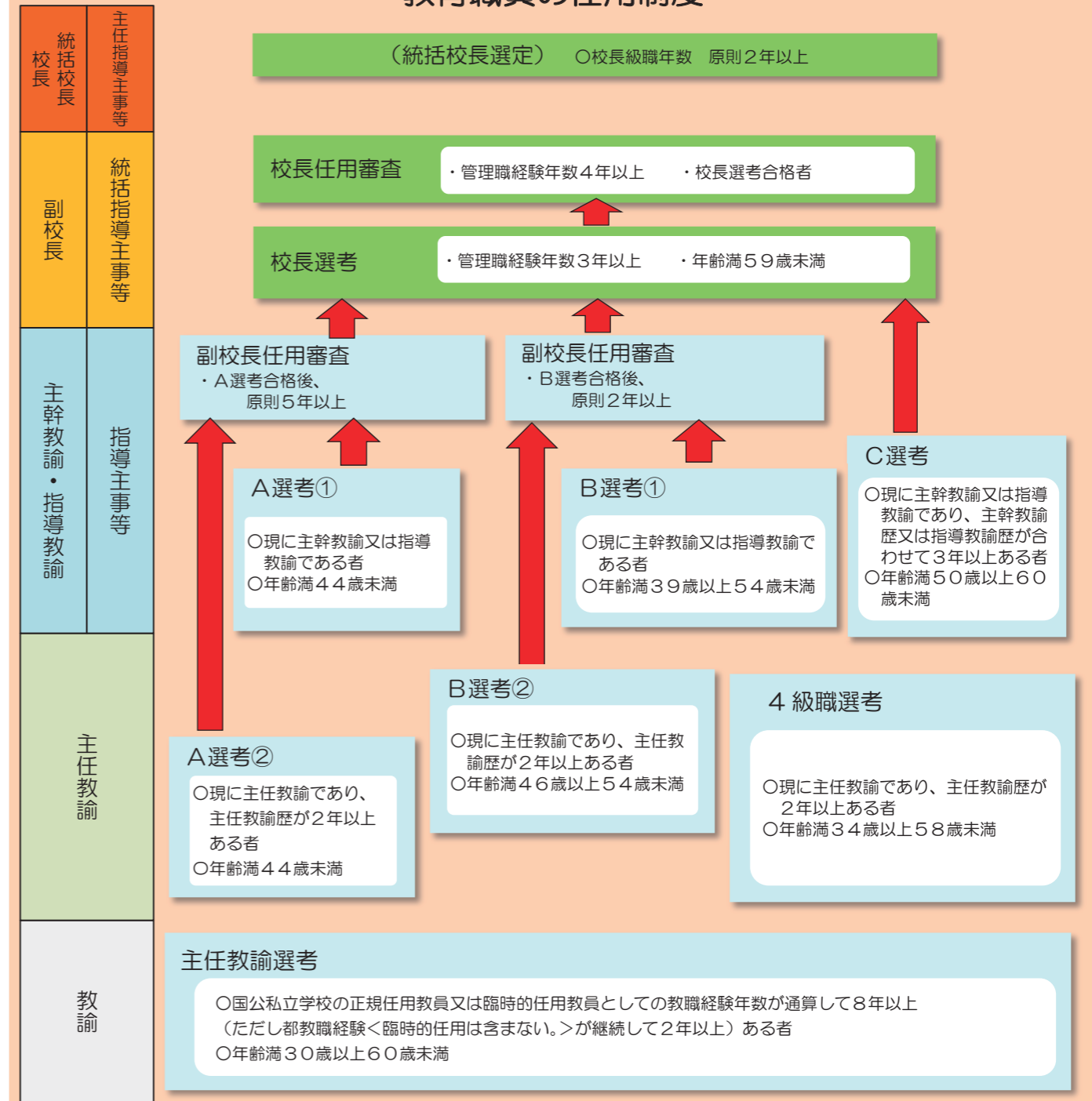
あなたの力で創り上げよう 子供も先生も輝く 東京の学校を

～あなたは、今後の教員生活をどう考えますか？～

東京都教育委員会では、能力・業績に基づく任用制度を整備しています。公平公正な選考によって、
多様なキャリアアップを図ることが可能になっています。

下の「教育職員の任用制度」を参考にして、あなたの今後の教員生活について考えてみましょう。

教育職員の任用制度



今後の教員生活におけるキャリアアップについて考えてみましょう！

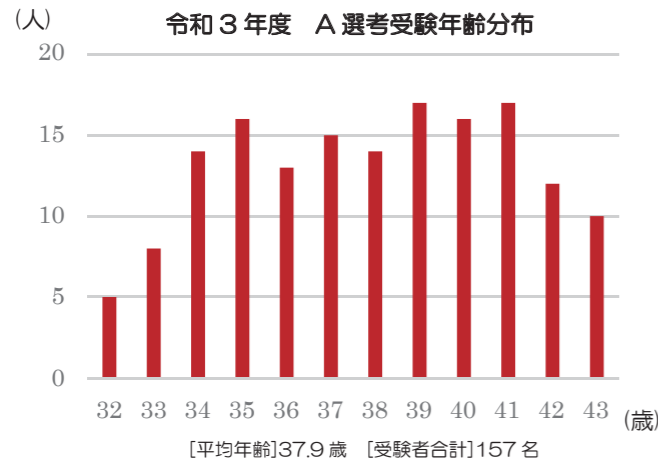
未来の東京都の教育を支える教育管理職に昇任するための選考には、「A選考」、「B選考」、「C選考」の3種類があります。ここでは、若手・中堅教員を対象とした「A選考」と「B選考」を紹介します。

教育管理職選考（A選考）

行政感覚にも優れた教育ゼネラリスト的な管理職の養成

⇒指導主事や長期社会体験研修生等として養成

【選考状況】



【選考後の進路（例）】

※A選考合格後は原則として指導主事になりますが、他の進路もあります。

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
A選考① ケース1	指導主事					副 校 長	
A選考① ケース2	長期社会体験研修	指導主事					
A選考① ケース3	教職大学院派遣研修	長期社会体験研修	指導主事				
A選考② ケース4	現任校の主幹教諭	指導主事					

【校長になるまで】

A選考① 主幹教諭及び指導教諭からの選考の場合（満35歳で受験した場合）

年数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
年齢	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
選考等	A選考 受験合格					任用 審査			校長選考 受験合格	任用 審査		
職層等	主幹 教諭	指導主事					副校長			校長		

A選考② 主任教諭からの選考の場合（満32歳で受験した場合）⇒合格後、原則として1年間現任校で主幹教諭

年数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
年齢	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
選考等	A選考 受験合格						任用 審査			校長選考 受験合格	任用 審査	
職層等	主任 教諭	主幹 教諭	指導主事					副校長			校長	

※上の図は、選考や任用審査を最短で合格・適格となった場合の年数となります。昇任待ちや個人的な事情などにより変化します。

【A選考から昇任した教育管理職の声】

指導主事として、地区の教育政策の推進、地域の子供たちの育成、様々な研修の企画・運営等を行ってきました。担当業務の課題を把握・整理し見通しをもって業務を遂行する力が磨かれたと思います。

現在は、指導主事の経験を生かし、副校長として、様々な関係機関と連携を密にし、児童が安心して学べる学校づくりに努めています。

A選考⇒指導主事⇒副校長（小学校）

学校経営支援主事として、教育課程の届出や授業観察、ミドルリーダーとの面接などの学校訪問を通して様々な取組を学び、自分自身の視野を大きく広げることにつながりました。

現在は、副校長として、これまでの経験を生かし、本校が地域の特色に応じた学校になるべく、校長と共に推進していけるよう、日々学校経営に励んでいます。

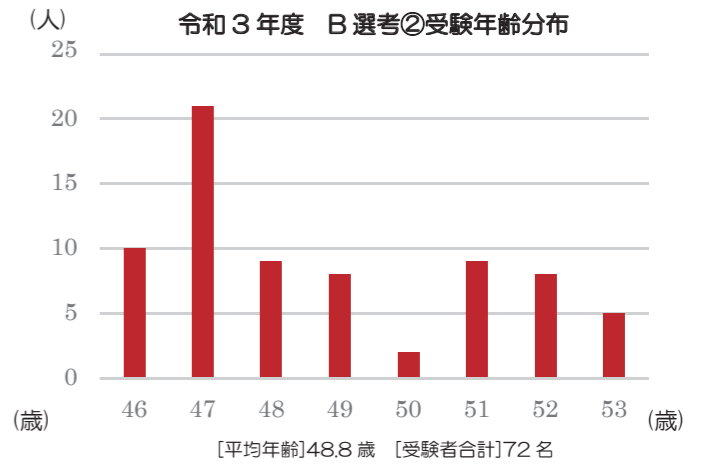
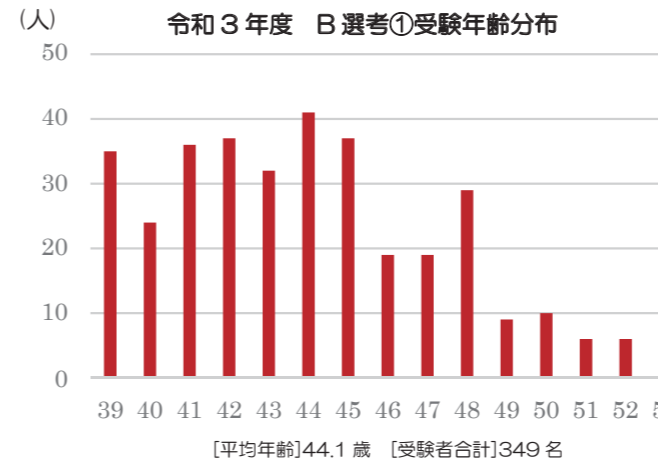
A選考⇒学校経営支援主事⇒副校長（高等学校）

教育管理職選考（B選考）

学校運営のスペシャリスト的な管理職の養成

⇒主幹教諭として学校運営組織の中心を担わせながら学校現場で養成

【選考状況】



【校長になるまで】

B選考① 主幹教諭又は指導教諭からの選考の場合（満39歳で受験した場合）

年数	0	1	2	3	4	5	6	7	8
年齢	39	40	41	42	43	44	45	46	47
選考等	B選考 受験合格		任用 審査				校長選考 受験合格	任用 審査	
職層等	主幹教諭			副校長			校長		

B選考② 主任教諭からの選考の場合（満46歳で受験した場合）

年数	0	1	2	3	4	5	6	7	8
年齢	46	47	48	49	50	51	52	53	54
選考等	B選考 受験合格			任用 審査			校長選考 受験合格	任用 審査	
職層等	主任 教諭	主幹教諭			副校長			校長	

※上の図は、選考や任用審査を最短で合格・適格となった場合の年数となります。昇任待ちや個人的な事情などにより変化します。

【B選考から昇任した教育管理職の声】

主幹教諭として、学校運営に参画することや、地域の企業や福祉関係の方と連携して学校教育を進める経験を積んできたことで、教員としての視野が広がりました。

現在は、副校長として、児童・生徒一人一人の個に応じた指導を大切にさせ、現場の教員が生き生きと活動することができるよう環境調整する喜びをかみしめています。

B選考①⇒主幹教諭⇒副校長（特別支援学校）

主幹教諭として分掌業務の管理だけでなく、文書処理や諸帳簿の処理の仕方を管理職と共に経験したことは、現場での実践力の向上につながりました。

現在は、その学びを生かして、副校長として事務処理を円滑に進めることができ、先生方の人材育成により力を入れることで、指導力の向上につながることができています。

B選考②⇒主幹教諭⇒副校長（中学校）